

# ならやま・ビオトープ池の生き物 (2020年)



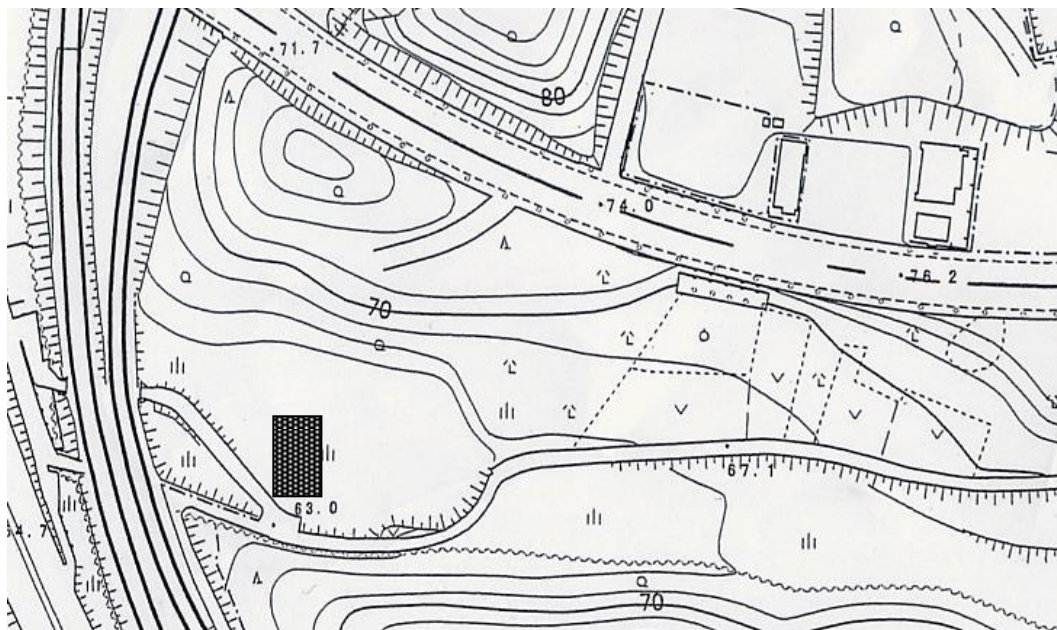
奈良・人と自然の会

## 目的

ならやまベースキャンプ地の荒れた湿地（昔は水田）の泥を取り除いて改修したビオトープ池にどのような生き物が飛来し、繁殖するかを継続的に調査し、このビオトープ池をよりいっそう生き物豊かな池として維持保存し、子供達の環境教育にも活用する。

## 場所

奈良市佐紀町



ビオトープ池：東西 10 m×南北 16 m

2010年4月、ユンボで泥と湿地性植物をさらえ、下層の粘土を露出するようにした。

## 調査方法

- ならやま池の東、西、南、北、中央部の深みの5箇所において、直径 40 cm の丸網でほぼ 1m 方形程度の面積の池底をさらうように掬い取りを行った。
- 調査開始は遅れて6月から始め、11月まで3週間毎に生息調査をおこなった。

## 一般管理

- 1月に落水し、池底に残った水とドロをポンプでくみだした（完全ではない）。
- 水管理はやや深め（40 cm）になるよう維持し、アオミドロに関しては発生に応じ、掬い取り除去を行い、密度増加を抑えた。
- ならやまでのイベントにおいて、子ども達に対し生き物の観察を実施した。

## 調査結果

1. 3月から新型コロナウイルスの蔓延のため、一時ならやまでの活動が停止となり、その後も感染防止のため、活動が思うようには出来なかった。
2. 調査は6月25日から開始し、ほぼ3週間ごとに11月26日まで計7回行った。
3. 池面上の昆虫の見取り調査では、アメンボ類はアメンボ、ヒメアメンボが中心であったが、ヒメイトアメンボも見られた。トンボ類はシオカラトンボ、ショウジョウトンボ、オニヤンマ、ギンヤンマの4種が見られたが、調査日外でチョウトンボも見られた。

### 水面上で目視した生き物（成虫）

目 視 日	目視された生き物
6月26日	シオカラトンボ、コシアキトンボ、ショウジョウトンボ
7月16日	シオカラトンボ、ショウジョウトンボ、アメンボ
8月6日	ギンヤンマ、オニヤンマ、シオカラトンボ、シウジョウトンボ
10月1日	ヒメアメンボ、イトアメンボ
10月29日	アメンボ
11月26日	ヒメアメンボ

- 観察された生き物の種類数は年々減少傾向が続き、貧弱になってきている。量的に多いのはならやま池で繁殖するエビ類、カワニナ、アメリカザリガニ、コマツモムシで、外部から飛来する昆虫類は種類数、個体数とも少なかった。
- アシも繁茂しすぎるくらいになっており、アオミドロもあり、環境的にはよくなっていると思われるのに、飛来昆虫が少なくなっているのが何故だかわからない。

### 水中の掬い取り調査で確認された生き物

グループ	種 類
魚 類	ドジョウ、メダカ
環形動物	ミミズ類、
貝類	カワニナ、ヒメタニシ、サカマキガイ
両棲類	オタマジャクシ（ヌマガエル）
甲殻類	アメリカザリガニ、スジエビ、ミナミヌマエビ、ミズムシ類
カゲロウ目	フタバカゲロウ類
トンボ目	イトトンボ類幼虫、シオカラトンボ幼虫
カメムシ目	エサキコミズムシ、マツモムシ、コマツモムシ、ヒメイトアメンボ、ヒメアメンボ、ホソアメンボ
甲虫目	ハイイロゲンゴロウ、ヒメガムシ
ハエ目	ユスリカ類

#### 1、ドジョウ

- 9月～11月の間に見られ、前年より若干多くて12尾であった。

月	6	7	8	9	10		11	計
	25	16	06	20	1	29	26	
南				3		1	1	5
西				1	1	1		3
北								0
東				1		1	1	3
中央						1		1
計				5	1	4	2	12

## 2、シマヒレヨシノボリ

- ・ タナゴ池から江流失したと思われる個体が9月20日に1尾(東地点)見つかった。

## 3、メダカ

- ・ 前年に初めて見つかったが、今年も9月～11月の間に13尾見つかった。

月	6	7	8	9	10		11	計
	25	16	06	20	1	29	26	
南								0
西								0
北								0
東				1	3	1	7	11
中央						2		2
計								13

## 4、オタマジャクシ

- ・ 調査開始が遅れたため、調査開始日の5月26日に1匹(南地点)見つかったのみであった。

## 5、ミミズ類

- ・ 調査期間中常に発生が認められ、量的にもかなり多かった。
- ・ 量的分布は南地点が少なく、中央部が多く、南地点の3倍であった。

月	6	7	8	9	10		11	計
	25	16	06	20	1	29	26	
南	7	23	1		3		5	39
西	20	10	11	1	16	6	10	74
北	1	15	8	2	20		15	61
東		12			3	24	22	61
中央		3	50	2	24	3	35	117
計	28	63	70	5	66	33	87	352

## 6、ミズムシ類

- ・ 6月25日に西地点で7頭、10月1日に南地点で1頭見つかったのみであった。

## 7、サカマキガイ

- ・ 6月25日に南地点で1頭、東地点で6頭、10月29日に南地点で1頭見つかったのみで、前年に比べ少なかった。

## 8、ヒメタニシ

- ・ 調査期間中常に発生は認められ、発生ピークは最終調査日の11月26日であった。しかし量的には前年の25%と少なかった。

- ・ 地点別では南地点と北地点が多かった。

月	6	7	8	9	10		11	計
	25	16	06	20	1	29	26	
南	1	5					4	10
西				1			2	3
北			1		3		7	11
東							1	1
中央							1	1
計	1	5	1	1	3		15	26

### 9、カワニナ

- ・ 調査期間中常に発生が見られ、前年同様に最終調査日の11月26日が最も多かった。
- ・ 地点別では、南地点と西地点に集中していた。前年同様に中央部は最も少なかった。

月 日	6	7	8	9	10		11	計
	25	16	06	20	1	29	26	
南	2	14	14	1	3	3	108	145
西	4	29	53	12	18	10	60	186
北			4	1	6	3	5	19
東		13	2	3	3	1	3	25
中央		1	1		2		3	7
計	6	57	74	17	32	17	179	382

### 10、ミナミヌマエビ

- ・ 前年同様にならやま池の主役で、常に多くの個体が見られた。量的には前年の半分であった。
- ・ 地点別では東地点がやや多かったが、池全体にほぼ均一に生息していた。なお、前年も東地点が最も多かった。

月	6	7	8	9	10		11	計
	25	16	06	20	1	29	26	
南	25	28	49	47	57	78	80	364
西	52	66	31	113	99	54	34	449
北	1	79	22	93	35	40	4	274
東	25	72	45	159	108	342	208	959
中央	7	31	69	51	82	116	31	387
計	110	276	216	463	381	630	357	2433

### 11、スジエビ

- ・ 量的には多くはないが常に発生が見られ、そのピークは9月20日であった。発生量は前年の2倍であった。

- ・ 地点別では中央部がやや多かったが、大きな差異はなかった。

月	6	7	8	9	10		11	計
	25	16	06	20	1	29	26	
南				9	6			15
西				27	1	1	1	30
北		10			1			11
東	1	3		2	4	5	1	16
中央	3	1	1	48	2	3	11	69
計	4	14	1	86	14	9	13	141

## 12、アメリカザリガニ

- ・ 調査期間中常に発生が見られ、時期的な変化は見られなかった。量的には前年度とほぼ同じであった。
- ・ 地点別では中央部が少なかったが、他の地点間には差はなかった。

月	6	7	8	9	10		11	計
	25	16	06	20	1	29	26	
南	3	2		6	1	1		13
西	1	7	10			1	5	24
北		11		6		7	5	29
東	4	7	1	3	1			16
中央			1	2		1		4
計	8	27	12	17	2	10	10	86

## 13、フタバカゲロウ

- ・ 6月25日、西地点で6頭見つかったのみで、前年同様に少なかった。

## 14、コマツモムシ

- ・ ミナミスジエビとともに池のメイン種で、周年発生が見られた。発生量は8月6日の調査では少なかったが、他の調査日間には大きな差はなかった。また捕獲虫数は前年とほぼ同じであった。
- ・ 地点別では、前年同様に東地点が最も多く、ついで南地点であった。

月	6	7	8	9	10		11	計
	25	16	06	20	1	29	26	
南	42		7	32	41	12	19	153
西	11	23	5	46	22	10	4	121
北	1	27		19	14	2	2	65
東	57	93	10	135	112	117	91	615
中央	7	1		15	24	53	8	108
計	118	144	22	247	213	194	124	1062

### 16、マツモムシ

- ・ 調査期間中つねに発生が認められたが、前年に比べ若干少なかった。
- ・ 地点別では、東地点が最も多く、ついで南地点であった。中央部はまったく認められなかった（前年はわずか1頭）。

月	6	7	8	9	10		11	計
	25	16	06	20	1	29	26	
南				3	1	8		12
西		1					1	2
北			1	1				2
東		9			13	6	2	30
中央								0
計		10	1	4	14	14	3	46

### 17、エサキコミズムシ

- ・ 発生は非常に少なく、わずか6頭であった。

月	6	7	8	9	10		11	計
	25	16	06	20	1	29	26	
南	1							1
西	2							2
北		1						1
東				1				1
中央	1							1
計	4	1		1				6

### 18、マルミズムシ

- ・ 6月25日、西地点でわずか1頭見られたのみであった。

### 19、ユスリカ類（赤色タイプ幼虫）

- ・ 7月16日をピークに常に見られたが、量的には前年の25%であった。
- ・ 地点別量では北地点を除いてほとんど同じであった。

月	6	7	8	9	10		11	計
	25	16	06	20	1	29	26	
南	6	8	1				1	16
西	7	10	1		1		1	20
北		4						4
東		14			1	3		18
中央		7	5	1				13
計	13	43	7	1	2	3	2	71

## 20、ユスリカ類（黒色タイプ幼虫）

- ・ 7月16日にわずか4頭みられたのみで、前年よりもさらに少なかった。

月	6	7	8	9	10		11	計
	25	16	06	20	1	29	26	
南								0
西		2						2
北		1						1
東		1						1
中央								0
計		4						4

## 21、トンボ類幼虫（やご）

- ・ シオカラトンボ幼虫は、10月29日に南地点で1頭見つかった。
- ・ イトトンボ類の幼虫は、7月16日に北地点で2頭、中央部で1頭見つかった。
- ・ 目視調査では、シオカラトンボ、ショウジョウトンボがよく見つかったが、ギンヤンマ、オニヤンマは1回限りであった。チョウトンボは通常の活動日にかなり見つかった。

## 22、甲虫類

- ・ 近年非常に少なくなってきており、本年もわずか2種のみで個体数もほんの僅かであった。
- ・ ヒメガムシは、9月20日に北地点で1頭、10月1日に北地点で2頭であった。
- ・ ハイイロゲンゴロウは、10月29日に西地点で1頭であった。

## 20、アメンボ類

- ・ アメンボ類は本来水面上を遊泳している昆虫であるが、掬い取り調査で網に若干はいった。
- ・ アメンボは、6月25日に西地点で1頭、10月29日に西地点で1頭見つかった。
- ・ ホソアメンボは6月25日25に西地点で1頭見つかった。
- ・ ヒメイトアメンボは、10月1日に南地点で1頭、10月29日に南地点で2頭見つかった。

### 調査・とりまとめ担当者

#### 景観グループ：ビオトープ池担当者

岡崎節子、木村 裕、田中善英、  
戸田博子、中村勇二、羽尻 嵩、  
守口京子、山本妙子、

#### 調査とりまとめ日

令和3年1月10日